

令和2年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会協議録

1 会議の概要

(1) 開催日時 令和2年7月30日(木) 19:30～20:50

(2) 開催場所 福山ニューキャッスルホテル2階 松の間

(3) 出席

(委員) 全員出席

内藤 賢一 委員長、石原 広一 副委員長、

木内 良明 委員、金澤 右 委員、板橋 千代美 委員

(府中市病院機構)

多田 敦彦 理事長、小森 祐一朗 事務局長

(府中市)

小野 申人 市長、唐川 平 健康福祉部長、皿田 敏幸 医療政策課長、

伊達 武司 医療政策係長、安部 智洋 主任主事

2 会議の内容

唐川健康福祉部長（以下「進行」という。）：失礼いたします。定刻となりましたので、只今から、令和2年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を開会いたします。

委員の皆様方におかれましては、御多用の折、また夜間の会議開催にもかかわらず、本評価委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、府中市健康福祉部長の唐川と申します。議事に入りますまでの間、私が進行させていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

本日の評価委員会では、事前にお知らせしておりましたとおり、令和元年度業務実績の評価（案）及び第2期中期目標期間の業務実績の評価（案）に対して御意見をいただくこととしております。円滑な進行を心掛けてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、委員の皆様の出欠について報告いたします。本日は、全委員の皆様にご出席いただいております。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

本日の会議資料といたしまして、委員の皆様には、事前に資料を送付しておりますが、お持ちいただいておりますでしょうか。

なお、皆様のお席に本日の配席とともに、本日の会議次第を改めてお配りさせていただいております。本日の協議はこの次第にのっとり進めさせていただきますので、御了承ください。

資料の確認は以上でございますが、議事進行中でも結構ですので、資料の不足がございましたらお知らせください。

本日の会議につきましては、事前にお知らせしておりましたように、報道関係者に会議の傍聴を許可しております。報道関係の皆様におかれましては、議事に入りましたら撮影禁止とさせていただきますので、御了承ください。

なお、ここで、皆様に1点お願いがございます。本日は御覧のように、ソーシャルディスタンスの確保のため、ゆったりとした間隔をとらせていただいております。また、机の上にはアクリル板を設置をさせていただいた上でマスクも着用していただいている状況でございますので、御発言の際はなるべく大きな声でお願いできればと存じます。どうぞよろしくお願いいいたします。

それでは、開会にあたり、小野市長からあいさつを申し上げます。

小野市長： どうも皆さんこんばんは。

委員の皆様におかれましては、大変御多用の折、また遅い時間にもかかわらず、地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から皆様におかれましては、府中市の医療行政に対しまして格別なる御理解と御協力を賜っておりますことに対し、この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

近々の情勢としまして、新型コロナウイルス感染症が挙げられる訳でございますが、先日、府中市においても感染者が確認され、県内におきましても感染の拡大が続いているといった状況となっております。府中市といたしましても、これ以上の感染拡大を防ぐため、市民の皆様に対しまして警戒と感染予防を呼び掛けているところでございます。

府中市病院機構におきましては、昨年度、府中市民病院で、整形外科、麻酔・救急科、婦人科の常勤医師が新たに着任され、医療提供体制の充実が図られ、また、府中北市民病院におきましては、サービス付き高齢者向け住宅を開設されるなど、多田理事長を初めとして、日々府中市における医療提供、また地域共生社会の構築に向けた取組に御尽力をいただいているところでございます。

さらに、現在の新型コロナウイルス流行下における両病院の努力と献身的な対応については、府中市といたしまして感謝するとともに敬意を表するものでございます。

本日の評価委員会でございますが、内容などにつきましては、後程事務局から説明をさせていただきますが、令和元年度の実績評価、また、中期目標期間の終了に伴う4年間の業務実績評価、主にこの2点について委員の皆様からの御意見を頂戴し、成案を得たいと考えておりますので、御審議の程、よろしくお願いいいたします。

また、本日は、せっかく皆様にお集まりをいただいておりますので、評価委員会終了後に意見交換会を予定させていただいております。評価委員会における御意見だけではなく、広く意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、最後までのお付き合いをお願いいたしまして、簡単ではございますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日の御審議、どうぞよろしくをお願いいたします。

進行： それでは、内藤委員長からごあいさつをお願いいたします。

内藤委員長： 評価委員長の内藤でございます。

委員の皆様におかれましては、御多用の中、また遅くからの会議開催にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今回の評価委員会は、令和元年度の業務実績に加えまして、第2期中期目標期間の業務実績に関する評価に対する御意見や御助言などをとりまとめていきたいと思っておりますので、委員の皆様の御協力をよろしくをお願いいたします。

進行： ありがとうございます。

それでは、以降の進行につきましては、内藤委員長をお願いいたします。なお、撮影はここまでとさせていただきますので、報道関係の皆様は所定の席にて傍聴してください。

内藤委員長： それでは、これより議事に入ります。

協議に入る前に、本日の評価委員会について、事務局から説明をお願いします。

事務局： 失礼いたします。

府中市医療政策課の皿田です。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、議事に先立ち、本日の評価委員会の主な内容につきまして、説明させていただきます。

資料1、『地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会について』と題した資料を御覧ください。

2番目の項目で、本評価委員会の所掌事務の主なものを記載しておりますが、このうち、本日評価委員会の皆様に御意見をいただきますのは、(3)の「当該事業年度における業務の実績及び中期目標の期間における業務の実績に係る市長による評価の際に意見を述べる」という項目になります。

具体的には、「3 令和2年度における評価委員会の目的・役割」に記載をしております、(1)令和元年度の事業報告について、市長が業務実績を評価するにあたり、評価委員会の御意見をいただくということ、それから、(2)第2期中期目標期間（平成28年度～令和元年度の4年間）の事業報告について、市長が業務実績を評価するにあたり、評価委員会の御意見をいただく、というものです。

詳細につきましてはそれぞれの議事の際に説明をさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に沿って会議を進めます。

(1)-①令和元年度の業務実績評価（案）についてを議題といたします。

まず府中市病院機構から令和元年度の業務実績についての説明を受け、続いて事務局から市の評価（案）について説明を受けた後、委員の皆様から評価（案）についての御意見をいただきたいと思ひます。

それでは、府中市病院機構から資料2の事業報告書について簡潔に説明をお願ひします。

多田理事長： 府中市病院機構理事長の多田と申します。よろしくお願ひいたします。

資料2の3ページから説明したいと思ひます。全体的な状況でございますが、平成31年（令和元年）度は経常収支比率の実績は95.1%、市からの繰入金を含めましても1億8,700万円の赤字決算ということになりました。

府中市民病院、府中北市民病院を別々に見てまいりますと、府中市民病院では前年度比較で医業収益は2,900万円の減ということでありまます。これを見ると1年間低調な形で終わったかのように見えますが、令和元年度4月、5月、6月というのは、前の年に外科医3名が退職したこともありまして医業収益は低調な状況でございましたが、4月に整形外科医が着任しまして7月から本格的に整形外科の手術を11年振りに復活させて、徐々に軌道に乗っているということがあります。それから、7月に麻酔・救急科医師が着任されまして、これまで当院では断っていた症例も引き受けてくださる、そうすると救急も入ってくるというような良い流れができて、徐々に医業収益の方は改善してきて、内科の方も頑張ったということで回復してきてまます。年末から1月、2月、3月に関しては、機構として黒字を出した平成29年度並みに回復してきてまますという状況があります。ただ、前半の低調な時期が足を引っ張って、1年で見ると2,900万円の減ということでございます。

次のページの府中北市民病院に関しましては、医業収入は3,700万円の増、医業費用も5,000万円の増ということでありまます。赤字額は前年度比較で2,200万円の減ということで、前年度と同様の成績ということでございました。外来は人口減もあって400万円とやや減でありまましたが、入院収益は3,400万円の増ということで、上下地域で病床を持つ病院としての存在感を示している状況かというふうに思ひます。府中北市民病院の1階と2階は外来で、以前は3階、4階が入院病棟だったのですが、病床数を調整した結果、いま3階だけで1病棟60床となっています。4階は空いた状態であったのですが、そこを改修してサービス付き高齢者向け住宅を開設して、順調に経営が進んできておりま

す。

昨年の9月であります、厚生労働省から再編の再検証が必要な病院として、府中市民病院、府中北市民病院の両病院が名指しされるということがございました。府中北市民病院は平成30年度に60床全部を地域包括ケア病床にして、回復期病床というふうに手上げをしたということがあったので、その後対象病院から外れております。

府中市民病院の方は150床のうち、これまでは100床を急性期病床、そして50床を慢性期病床というふうな形で届け出ておりましたけれども、急性期病床のうち50床を地域包括ケア病棟にしたところから回復期として、急性期50床、回復期50床、慢性期50床というふうな形で、病床機能評価として届け出ております。急性期の50床につきましては、約4万人の人口規模の府中市にあって、必要な急性期機能というふうに考えています。高度なことはできませんけれども、地域に密着した、必要な急性期機能というふうに考えております。こういった必要性というものをアピールして、更にまた、担うべき守備範囲をもう少し広げながら、急性期機能は守っていききたいというふうに考えております。

広島県の地域医療構想につきましても、福山・府中地区の病床数については、2025年の構想とほぼ過不足無しという状況であります。府中市については人口の割に病床数は少ない状態でありますから、府中市民病院の150床、そして府中北市民病院の60床、これは守っていききたいと考えております。

お話ししたかったところはその2点でございます。また、へき地医療、災害医療についても、しっかりと計画を立て今後も進めていきたいというふうに考えております。私の方からの説明は以上でございます。

小森事務局長： 事務局長の小森です。私の方からは財政的なところを報告させていただきます。

資料の22ページになります。理事長が報告されたところと重複するところがありますが資料を読ませていただきます。

第4の1ですが、経営基盤の強化による自律した病院運営の項目です。法人の経営成績は、収支計画では4,700万円の黒字を目標にしておりましたが、決算では約1億8,700万円の赤字となり、経常収支比率は、101.2%の目標に対して実績は95.1%となりました。また、市からの繰入金は、当初予算の4億円に加えて、7,500万円の追加を受けました。市の繰入金を除く赤字額が過去最大となった府中市民病院では、業務運営や財務管理の見直し及び効率化を進めるため、事務部門や看護部の組織体制、幹部会や委員会のメンバーや開催方法などを見直します。既に見直しています。組織を活性化することで職員の人材交流を進め、情報の共有による業務の効率化を図ることで歳出削減に努めます。

具体的な数字として、市からの繰入金を除く赤字額の前年度比較です。府中市民病院の増減は1億8,643万7千円の増、府中北市民病院の増減は1,122万5千円の増、2病院合計で赤字額が1億9,766万2千円の増という成績になりました。よって経営指標は全ての項目について目標を達成できませんでした。全て達成状況に×印が付いています。

ページが飛びまして24ページの中段第5の2、医療機器などの整備のところです。本年度の投資的経費は4億7,995万円で、両病院の耐用年数を超えた医療機器の更新と、府中市民病院の整形外科手術再開に向けた機器整備、府中北市民病院のオーダリングシステムの更新に合わせた電子カルテ導入、サービス付き高齢者向け住宅や手術室の改修工事、MRI更新のための機器購入及び施設改修工事に要する経費です。内訳は、府中市民病院の投資額は7,738万円、府中北市民病院の投資額は2億5,004万円の投資的な経費になりました。

特徴的なところは27ページ、こういった経営成績のため、令和1年12月19日、賞与の支給等による一時的な資金不足に対応するため、市中銀行から限度額上限の3億円を借り入れましたが、年度末の令和2年3月31日に全額一括返済しております。以上報告いたします。

内藤委員長： ありがとうございます。

続いて事務局から市の評価（案）について説明をお願いします。

事務局： はい。それでは、令和元年度の業務実績に関する評価（案）につきまして説明をいたします。時間の都合上、主な点のみの説明とさせていただきますので、御了承ください。

まず、総合評定ですが、ここでは全体的な評価をしております。

内容といたしましては、「市からの追加支援にもかかわらず約1億8,000万円の当期純損失となったが、令和元年度における投資がすぐには収益として反映されない面があるため、投資の収益が翌年度以降に反映され、収支状況が改善することを期待する。」、また、「府中市民病院においては、常勤医師が新たに着任したことにより市民の安心・安全につながる医療提供体制の充実が図られた。」などとしております。

続きまして、事項ごとの主な評価といたしまして、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項につきましては、「地域に必要な医療の提供に努め概ね順調に実施されている。」といたしまして、府中市民病院における常勤医師の着任による整形外科手術の再開、婦人科機能の充実及び救急機能の強化が図られたこと、またへき地医療拠点病院としての巡回診療の継続、府中北市民病院におけるサービス付き高齢者向け住宅の整備や地域の事業所と連携しての活動などを実績・成果として挙げております。

一方で、災害対策訓練が未実施であること、また職員の待遇改善及び積極的な情報発信といった点を課題として挙げております。

業務運営の改善及び効率化に関する事項につきましては、「概ね前年度と同様の取組状況であった。」としておりますが、課題といたしまして、「自律的業務運営の実現に必要な経営戦略の充実と運営管理体制確立の実現のための法人事務局体制のさらなる強化が必要」としております。

続きまして、財務内容の改善に関する事項・その他業務運営に関する重要事項・予算、収支計画につきましては、「様々な投資に係る収益が翌年度以降に反映され収支が改善することを期待する。」といたしまして、課題につきましては、「設備投資に伴う減価償却費及び人件費が増加しており、これらに見合う収益の確保が必要」とし、加えて、機器整備の計画的な整備・更新を挙げております。

甚だ簡単ではありますが、市の評価案についての説明は以上です。

なお、この評価のもととなりました内容につきましては、資料4『説明資料（府中市の評価案について）』に詳細を記載いたしております。

時間の都合上、資料の説明は割愛させていただきますが、御不明な点などは、この資料4を参考にさせていただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、令和元年度の病院機構の業務実績や市の評価について、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思っております。

金澤委員： 府中北市民病院で、急性期病床が地域包括ケア病床になったということですが、気になるのが購入機器の中にMR Iがあり、これが地域包括ケアを目指す病院に相応しいかどうかというようなところはどのように考えて。購入してから（地域包括ケア病床に）なったということですか。

多田理事長： 地域包括ケア病床であり回復期病床というようなことで出ていますが、実際は救急車の受入もしていますし、整形外科の常勤医がおりまして手術もされています。

金澤委員： 府中北市民病院で手術を。わかりました。

多田理事長： ですから脳卒中（の患者さん）も時には運ばれて来ますし、骨折の評価や治療方針についてもMR Iは必須の機器ということで、高価ではありますが必要なものとして整備いたしました。

内藤委員長： どのくらい稼働していますか。

小森事務局長： 府中北市民病院のMR Iは、平均して1日2件程度の稼働となっています。

内藤委員長： 2件程度だと、元をとるといえるか償却していくのが難しい数字でしょ

う。

小森事務局長： 府中市民病院の方が大体1日に5件程度と（府中北市民病院は）半分以下ぐらいですけれども、理事長が説明したように、病院への投資にはなるのですけれども地域への投資という視点もありますので、府中北市民病院の医療機能を整形外科で維持する必要があったり、救急の現場で維持する必要があったりと。あとは地域的に言うと、上下町の医療機関というと府中北市民病院と整形外科の診療所の2か所しか無いので、そういう意味でも地域への投資というふうな思いも持って投資したところでございます。

内藤委員長： 府中市民病院と府中北市民病院のMRIを、共同利用するというようなことは不便に過ぎるといいます。

多田理事長： はい、（両病院は）30キロメートル離れておりまして、すぐに撮影が必要という場合も多い分野でありますので。

内藤委員長： 1人で撮らないといけないというのも多いと。ペイはできなくても住民のためにといい状況ですか。

多田理事長： はい。

木内委員： 赤字体質のところ、ここで思い切った投資をするというのは、どういう将来的な改善計画があってここまで大きな投資をされたのかというのが、やはり不思議に思いました。それから、どういう収支改善計画を立てておられるのかというところが知りたいと思いました。

多田理事長： 機構が発足したのが平成24年ですけれども、医業収入については常に右肩上がりでありました。ピークだったのが平成29年ですが、その時点では黒字を達成できて、描いていた状況というのは間違いでなかったというふうに考えたところであります。ただその後、外科医師の退職ということがあって、プランがかなり崩れたというところがありますが、今度整形外科の常勤医が来られて手術を再開できる、それから救急医の招へいができて救急の受入が充実できる、産婦人科の常勤医により女性医療、また少し違う分野の診療も増えていくというふうなこともあって、外科医の不在を十分埋められるだけの状況が整って来ているのではないかといいふうに考えております。

木内委員： 具体的にどの部分で収益が1年間でどのくらい増えるというところの計画と、収支の説明のところを見させていただきますと、府中北市民病院で医業収益が3,700万円の増、医業費用は5,000万円の増。収入が増えても支出が上回ってしまうのはよろしくない。いま御説明いただいたように、収益が増えても医業費用が増えたら、府中市民病院で医業収益が2,900万円減って医業費用が1億5,000万円増えたと、バランスがとれていないのではないかといい気がいたしまして、少ない収入を如何に増やしていったって支出をどのように毎年毎年減らし

てとそういった計画が無ければ、単にお医者さんが増えたからプラスになる見込みだとか、一番調子が良かった時と一緒だと言われても、巨額の投資をなされた後に果たしてそれは黒字化に繋がるのかなというのは、ちょっと心配になりました。

小森事務局長： 令和元年度の費用増の一番の要因は、府中市民病院も府中北市民病院も給与費のところですけども、給与費といっても医師の給与費だけではなくて、府中市民病院でいうと大きいところは退職給与の引当金、前年度比較ですけどもそれが3, 100万円多くなっている。それから賃金、非常勤医師の負担軽減ということで当直とかにいろいろ入ってもらっています。整形の手術をするということで手術時の応援の医師もあって、諸々の臨時・非常勤の賃金、これが2, 900万円。もちろん医師の給与だけでいうと給与費の増は1, 000万円程で、あとは医師の手当てがあるのでそれが1, 900万円、2, 000万円弱と。

今後の人材をフルに活用し、府中市に整備していただいた病院の設備、医療機器を今後フルに活用することができれば、収益はもちろん上がっていくと思いますけれども、ただ単年度で人件費に比例した収益が上がりなかったというところは、整形外科の手術といってもスタートからできるわけでもないし、手術件数が増えていかないのはやはり、府中市民病院の整形外科手術の地域住民の認知度と言いますか、その辺りも今後広まっていかないと困りますし、前年度と比較して収益が上がりなかったのは、前年度よりも病床利用率が下がっていたので、3つの病棟がありますけれども、急性期の病棟については整形外科手術が始まりました7月以降、前年度を若干上回る病床利用率だったのですけれども、回復期の地域包括ケア病棟とか慢性期の療養病棟、この辺りはマイナス5%と。病床が十分使えていなかったというところがありますので、繰り返しになりますが、人材、施設設備、投資に見合う病床のフル稼働を達成していければ、収支は大きく改善していくものと見込んでいます。

木内委員： 経費減（の計画）はどうですか。人件費が増えて固定経費が増えてしまうと投資が鈍くなる。

多田理事長： 前年度比で府中市民病院の医業費用が増えているということに関しましては、前年度外科医師3名が退職されたということで人件費が一時下がった、それから経費も下がったということがあって、そこから通常ベースに戻ったということもあって前年度比でいうとかなり大きく差がついている、それがひとつの理由。もうひとつは、整形外科の手術が11年振りの再開ということもあって、新たな機器をかなり揃えなければいけなかった。これが8, 000万円くらい投資が必要であったというようなこともあって、前年度と比較すると増えておりますが、今後についてはそういったところが均され、収益増に繋がる投資というふうに考えております。

木内委員： ありがとうございます。御説明にありましたように、単年度単年度で前年度との比較ということでやっていきますと流れが分からなくて。できたら資料として、過去3年ないし5年のトレンドが出てくるようにしていただくと、御説明いただいた内容を理解しやすくなると思いますので、次回からお願いできますでしょうか。

多田理事長： ありがとうございます。

内藤委員長： よろしくお願ひします。

せっかく機材を揃えたりしていますので、それを使うドクターが居なくなると無用の長物になってしまう危険性がありますから、ドクターの確保だけでなく、いまおられるドクターが辞めないように、そういう努力もお願いします。

内藤委員長： 他にございますでしょうか。

板橋委員： 私は病院経営とかは全然分からなくて、一市民としてここに座っておりますし、府中北市民病院がある地域に住んでいます。人口が減っていますし、その中で不安をたくさん抱えておられる人が多く、(南部の)府中まで出てMRIを撮っていただくというのがなかなか難しいです。高齢化もしていますし。隣の町に行っただ方が良いのではという意見も出たりしますので、私はこれ(MRI)はとてもありがたいと、本当に助かっていると感じています。親族が去年骨折しました。手術して治していただいたときに、府中北市民病院は手術ができないという噂がたくさん流れていまして、皆、「上下で手術ができるの。」とおっしゃって。そういう告知もしっかりしていただいて、手術ができないのなら市内の病院に行くよりは世羅(町の医療機関)に行っただ方が近いので。だからそちらを選ばれたりということが、結構増えているのではないかと感じています。だからもう少し、市民の方にこういうことができるということをしっかり伝えていただければ。

近くでしていただけるとということ程ありがたいことは無いですが、田舎に住みますと。少しお金は掛かったかもしれないけれど、市民はとても喜んでいる人が多いということも知っていただければと思います。

内藤委員長： 貴重な御意見をありがとうございます。赤字も住民サービスのことも考えないといけない、その兼ね合いというか、如何に効率よく使っていくか。そのためには周知徹底、うまく住民の皆様にお知らせするようによろしくお願ひします。それが収益アップにも繋がると思います。

他にございますでしょうか。

石原副委員長： 多田先生のお話ですと、前半7月くらいまでは先生方がなかなか揃わなくて低調だったと。投資の時期ももうちょっと時間が、後から効果が出てくるのだらうと思うのですけれども、だんだん増えてきたという状況で捉えてよろしいでしょうか。

多田理事長： はい、そのとおりです。

石原副委員長： 府中北市民病院のサービス付き高齢者向け住宅は、現状どのくらい入っておられる。

事務局： 全17室でいま12室。市が1部屋確保していますので13室、今日現在で。

石原副委員長： これもだんだん増えていく流れになるということ。

事務局： はい、順調に増えてきております。

石原副委員長： はい、分かりました。

神石高原町の病院が今度新しくできる、建替えというか。何か影響はあるのですか。府中北市民病院は神石高原町の方が結構入院されているという話があったと思いますが。

内藤委員長： 私は神石高原町立病院で週に1回執務していますが、内科の先生のみで整形外科は非常勤だけなので、入院されるのは内科の方です。ですからあまり競合しないのではないかと思います。(府中北市民病院と神石高原町立病院が)協力し合ってうまくやっていければ良いのではないかと思います。

石原副委員長： 地域は病院が無くなると困りますから、皆さん力を入れられていると思いますが、やはり関係があると思いますから、その辺りを一緒に作業をなさることが必要かと。

お金のことですが、3億円の一時借入れがあつて年度末には返済されている。いまは借りておられるのですか。

小森事務局長： 一時借入れはいまはしていません。

内藤委員長： 他にございませんでしょうか、よろしいでしょうか。

内藤委員長： 医師の確保や職員の確保に関しては、労働環境と言いますか時間外労働はどんな感じでしょうか。

多田理事長： 多少ございます。部署によって差がありますが、各部署とも無駄を省いて時間外労働を少しでも、30分でも削っていこうというふうなことで、いま頑張っていて、実際に少しずつ業務の見直しなどの効果もあつたり、各個人の意識を上げていくということで、少しずつ時間外労働は減ってきているというふうに認識しています。

内藤委員長： 長時間労働というふうな残業時間は特に無いと。

多田理事長： 一部の医師にはあります。

内藤委員長： その辺りもできるだけ解消を心がけていただきたい。医師の長時間労働もなかなか厳しくなっているから、難しいところはあるかと思いますが。

内藤委員長： いろいろ御意見をいただきましたけれども、住民サービスと赤字をどうするかというなかなか難しい問題もあるかと思いますが。うまい具合に考えてい

ただいて、病院経営をしていただければと思います。

府中市におかれては、御意見を踏まえて、令和元年度の業務実績評価のとりまとめを行っていただき、最終的な評価結果については、改めて各委員にお示しいただきますようお願いいたします。

また、府中市病院機構におかれては、いただきました御意見を、是非、第3期中期目標期間中の取組やその数値目標に反映していただきたいと思います。

内藤委員長： 続いて第2期中期目標期間の業務実績に関する評価（案）についてを議題といたします。

本件も、まず府中市病院機構から第2期中期目標期間の業務実績についての説明を受け、続いて事務局から市の評価（案）について説明を受けた後、委員の皆様から評価（案）についての御意見をいただきたいと思います。

それでは、府中市病院機構から資料5の業務実績等報告書について簡潔に説明をお願いします。

多田理事長： はい、説明させていただきます。

平成28年4月1日から令和2年3月31日までの第2期中期目標期間であります。総括しますと次のポイントがあると思います。

第1は府中市民病院、府中北市民病院にとりまして基盤整備の4年間であったというふうに思います。府中市民病院は平成28年の2月に新病院が建ちまして、11月にはグランドオープンという状況で、建物、ハードの部分が改善されました。それに伴い電子カルテシステムが整備されました。府中北市民病院は3年遅れまして、昨年電子カルテシステムを導入し、新しい時代に向けての基盤ができたのではないかと考えています。

2番目のキーワードとしては、守備範囲を拡大していった地域医療を拡充したことになるかと思います。府中市民病院につきましては先程からありますように、整形外科の手術再開、麻酔・救急科医師の招聘、そして婦人科常勤医師の増員というところがありますし、平成27年から始まりました巡回診療を、無医地区の山間部につき2回赴いて診療をしているということ。それから府中北市民病院のサービス付き高齢者向け住宅と、いろんな方面に守備範囲を拡げていっているところがあるかと思います。

3番目としましては、人事異動についてはかなり苦慮したところではありますが、収支につきましては平成28年度から29年度にかけて医業収入は増加しましたが、その後外科医師の退職もあって低迷した後半の2年間というふうなことでございました。

大きくまとめるとそういうことになりましたが、整備した基盤をもとにして、人的財産についてもかなりいろいろと蓄えてきたかと思います。次の4年間については

しっかりと活かして行って、更なる飛躍に繋げていきたいというふうに考えています。

簡単ですが以上です。

小森事務局長： 続きまして私の方からは財政関係のところを説明いたします。資料の22ページになります。

大項目「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」のところです。中期計画に定める中項目として、「1 経営基盤の強化による自律した病院運営」、「2 市からの財政支援」という項目ですが、中期目標期間の自己評価を「C」としております。「C」というのはやや遅れているという自己評価をしました。その根拠は24ページですけれども、関連指標、平成28年度から令和元年度まで4年間の指標を整理したものです。これを見ていただきますと、一番上の経常収支比率は平成28年度、平成29年度は（目標を）達成しましたという○印になっていますが、平成28年度は市から追加繰入れ5,000万円をいただいたうえで達成しているという状況です。平成29年度のみ、当初予算で追加繰入れ無しで達成していません。目標とすれば平成29年度と同様に、平成30年度、令和元年度達成する予定でしたけれども、医師の異動などありまして目標を達成できていません。よって先程申し上げました自己評価はやや遅れているというC評価にしてしております。

26ページの投資的経費の関係です。自己評価は「B」としており、概ね計画どおりとしております。果たして計画どおりと言えるのかどうかというところがあります。27ページで、中期目標期間4年間の投資計画額が僅か1億3,700万円だったのが、実績額でいうと大きな額が並んでおります。この辺りは、第2期中期計画を策定する段階ではまだ病院の方向性とか医師の体制とか、不安定なところがあったので、計画段階での投資額がなかなか見込めなかったというふうに説明させていただきます。

以上です。

内藤委員長： ありがとうございます。

続いて事務局から市の評価（案）について説明してください。

事務局： はい。それでは、第2期中期目標期間における業務実績評価（案）につきまして説明をいたします。この説明につきましても、主な点のみの説明とさせていただきますので、御了承ください。

まず、全体的な評価としましての総合評定ですが、内容といたしましては、中期計画に定める取組について、「概ね順調に推進している」としまして、一方で、「期間後半の経営状況は非常に厳しい状況が続いており、加えて今後はコロナウイルス感染症流行に伴う経営状況への影響が懸念される。」などとしております。

続きまして、事項ごとの主な評価といたしまして、住民に対して提供するサービ

スその他の業務の質の向上に関する事項につきましては、「地域に必要な医療の提供に努め概ね順調に実施されている。」といたしまして、実績・成果といたしましては、先程の年度における評価とほぼ同じ内容となっております。

課題につきましても年度評価と同じような内容となっておりますが、両病院の将来像の確立、それから外科の常勤医師の不在といった点を挙げております。

業務運営の改善及び効率化に関する事項につきましては、「職員教育体制の充実、院内保育所などの職場環境整備が医療従事者の確保・定着に寄与している。」といたしております。

実績及び課題につきましては、御一読いただけましたらと思います。

財務内容の改善に関する事項につきましては、「市としても強い危機感を持っている。計画的な設備投資など財務内容改善努力を。」といたしております。

課題につきましては、先程の年度における評価とほぼ同じような内容となっておりますので、御一読をお願いいたします。

最後に、その他業務運営に関する重要事項につきましては、「市の主要施策でもある子育て支援を初めとした市の施策への協力については評価する。」といたしております。

実績・成果及び課題につきましては、御一読いただけましたらと思います。

以上、時間の都合上、駆け足の説明となり、誠に申し訳ございませんが、市の評価案についての説明は以上とさせていただきます。

なお、この評価のもととなりました内容につきましては、資料7『説明資料（府中市の評価案について）』に詳細を記載いたしておりますので、御不明な点などは、参考にしていただければと思います。

どうぞよろしくをお願いいたします。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、第2期中期目標期間の病院機構の業務実績や市の評価について、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思っております。

木内委員： 府中北市民病院の病床をサービス付き高齢者向け住宅に替えられて、発想の転換をされているのはすごく素晴らしいと思えました。幅広く住民が求めるものを的確に捉えて提供されているように思いましたし、それは逆に経営の方にもプラスに働いていると、まさにタイムリーなシフトではないかと感じました。

内藤委員長： サービス付き高齢者向け住宅は住民サービスの一環だと思いますし、上下地区は特に高齢化が進んでおりますので、非常に良い取組ではないかと思っています。

他にございませんでしょうか。

石原副委員長： 資料5の最後の医療機器整備の、お金のことばかりで申し訳ないで

すが、気になっていまして、この辺りはどういう病院をお造りになるかというところで変わってくるわけですか。

小森事務局長： 第2期（中期目標期間）の計画を作る段階では、御意見がありました府中北市民病院のMR IやCT、オーダーリングシステム、本当なら更新時期を迎えたものですが、計画段階ではそれらを更新していこうというところまで計画に盛り込めなかった、判断ができなかったというところがありまして、令和元年度に更新することになりました。そういう事情と、府中市民病院でいうと外科の常勤医師がいたときは外科手術ができるような施設をとということで、建替えの時に整備していたものが外科の常勤医師がいなくなって、今度は整形外科の手術ができる施設・設備にしないといけないと。そんな事情もあって急遽投資が必要になってくるということで。府中北市民病院においては、当初に計画に盛り込めなかったけれども、計画期間の中間あたりで更新して、病床60床ですけれども上下地域の唯一病床を有する医療機関として存続していくという考えで更新することになりました。

繰り返しになりますが、中期計画を作る段階でそこまで判断ができていなかったというふうな説明になります。

内藤委員長： よろしいでしょうか。

石原副委員長： はい、ありがとうございます。

内藤委員長： 今後はどうなりそうですか。計画額を増やすとか実績額が減っていくとか、そういう見込みはございますか。

小森事務局長： 今年度から4年間の第3期中期計画を策定しております。医療機器については計画的な更新はしていこうということで、現在保有している固定資産のうち全ての機器について耐用年数経過後3年経ったものから順次更新していこうということで、4年間の設備更新計画、設備投資額を計上していますので、今後は計画的な投資になります。

内藤委員長： 第3期の計画額は1億3,700万円から増えるということですか。

小森事務局長： 第3期は耐用年数後3年経った機器を更新していきますので、計画額は（中期計画に改めて）あげています。

金澤委員： 耐用年数（プラス）3年というのは余りにも短い感じがします。（大学病院では）普通7年とか10年使いなさいと。機器にもよると思いますが3年は相当短いと感じますが、木内先生はいかがですか。

木内委員： 金澤先生がおっしゃられるように機器にもよりますが、耐用年数が過ぎてからが勝負で、なるべく長く。

小森事務局長： もちろん、計画とすれば耐用年数プラス3年経過後の機器をあげていますけれども、基本的には使えるところまで使いたしよと。ただし、あまり計画からずれると一気に更新ということになるので、それは順序立てて目安として。

内藤委員長： 多くの機器は7年くらいを目安にしますけれども、それよりかなり頑張っているところが多いかと思えます。その辺りの兼ね合いもあろうかと思えますが、一遍に全部更新することになるとそれは問題でしょうし、うまく計画を立てていただければと思います。

小森事務局長： はい。

内藤委員長： 他にございますでしょうか。

金澤委員： 計画を立てるときに、公的病院はどうしても人件費比率がものすごく高い状態で、計画とかなりずれる事情はよく分かるが、人件費比率はある程度しっかり目論見を立ててやっていった方が良いと思います。事情をお聞きすると、確かに医師の出入りが激しくてなかなか（計画を）立てにくい部分もあると思うし、器具も例えば整形外科の医師が来ることになって、これを揃えないといけない、これを揃えないと来てくれないみたいな、ともすれば地方の公的病院はそういうところに翻弄されるというかそういうことがあると思うのですが、ある程度経常的な人件費比率の目標を決めておいて、それに沿ってやっていかれると経営は健全化するのではないのでしょうか。

多田理事長： ありがとうございます。

内藤委員長： 参考にしてください。

木内委員： 前回も言ったかもしれませんが、（病院・職員は）すごく頑張っておられて、急性期から予防医療からへき地医療まで全部を守備範囲と考えられていて、オーバーワークではないかというふうに若干感じる場所があります。できる場所とできない場所の優先順位を決めて、ここから先は無理だという項目を作っても良いのではないかと思います。例えばICT技術を活用した地域医療連携、悪いことではなく素晴らしいのですが、紙ベースでも良いのではないかと。いまの府中市民病院の体力としてはそこまでは難しいです。オーダーリングシステムも電子カルテシステムも、あるといいけれど維持費が結構取られてしまうので、そういうことを考えると紙カルテでもいいかと。あれもこれもやろうとするとかなり苦しくなるのではないかと思います。

多田理事長： ありがとうございます。オーバーワークにならない程度には考えながらやっていますし、ひとつひとつもそれほど多い量ではないので、あれもこれもやっているけれど全部合わせたらそこそこの仕事量だと思っています。

内藤委員長： 電子カルテの導入をどうするかなど、なかなか時代の流れで入れざるを得ないところもあるかと思えます。

木内委員： 更新にかなりお金が掛かります。

内藤委員長： その辺りが辛いところです。していかざるを得ないところがあるんだと思いますが、経費に関しては厳しい。

木内委員： このサービスは手放しても良いという部分はありますか。

板橋委員： 私はとてもありがたく使わせていただいています。

木内委員： よくわかります。

内藤委員長： それでは、これらの御意見を踏まえて、第2期中期目標期間の業務実績評価のとりまとめを行っていただき、最終的な評価結果については、改めて各委員にお示しいただきますようお願いいたします。

また、府中市病院機構におかれては、いただきました御意見を、第3期中期目標期間中の取組やその数値目標に反映していただきたいと思います。

内藤委員長： 続きまして、(2)報告事項についてを議題といたします。①令和2年度年度計画について、事務局から説明をお願いします。

事務局： はい。資料8といたしまして、病院機構から提出いただきました、令和2年度年度計画書を添付しております。

事前に資料を送付させていただいておりますので、詳細は割愛させていただきますが、この年度計画書に基づいて、令和2年度の病院運営等が進められています。

以上です。

内藤委員長： この件について何か御意見はございますか。

内藤委員長： 新型コロナウイルス感染症が流行しておりまして、既に収益が悪化しているのではないかと思います。今後どのようになっていくか、もっと流行が進んで収益がますます落ちていくということもあろうかと思いますが、いまの計画ではその辺りを考慮せずに計画されていると思います。途中でも変更するのか、それとも今年度は当初の計画どおりで、と考えていてよろしいでしょうか。

多田理事長： 計画はこのままでありますが、実際の運用につきましては新型コロナウイルスの蔓延状態、それから福山地区ないしは府中市内の蔓延状態に応じて、通常業務でいくのかある程度縮小するのかそういったところを考えながら、院内で発生させないように、また地域も守りながらということで頑張っていきたいと思っています。

内藤委員長： 収益云々だけではない公立・公的病院としての使命というものがあろうかと思います。民間病院ができないことを是非お願いしたいと思います。府中市にとって非常に貴重な病院でございますので、住民サービスという面も含めまして、今後の蔓延の仕方によっては病院で府中市民のコロナ患者さんを診るということも出てくるかもしれませんし、その辺りも含めまして御検討いただければと思います。発熱外来の設置に関しても是非御検討いただければと思います。当然府中地区医師会としても協力させていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

多田理事長： 是非検討していきたいと思っています。

石原副委員長： いろいろ計画がある中で、一番力を入れられるところを教えていた

だけでしたら。

多田理事長： まずは地域包括ケア。地域に住まわれる全ての方が幸せな人生と言いますか良い人生を送られるように支え寄り添うのが我々の役目だと思っています。そのためには急性期医療も必要でしょうし、回復期医療も必要ですし、予防医療、先程から御指摘があるようにいろいろなところが必要になるかと思いますが、それを我々だけでなく、地域の方々、医療機関、福祉施設などとも連携をとりながら実現していきたいというふうに思っています。

石原副委員長： ありがとうございます。

金澤委員： 医師の奨学金を出されていますが、その奨学生が帰ってきたり研修をしたりという目安はどのような感じですか。

事務局： 最上級生が6年生、これから初期臨床研修のマッチングに入っています。来年から、できれば広島県東部の病院で初期臨床研修を受けていただきたいと思っています。それ以降はほぼ毎年1人ずつくらい奨学生がおりまして、全員で6人いますがこれから毎年卒業となっていこうと思っています。広島大学病院さん、岡山大学病院さんにキャリア形成において御協力いただくことがあろうかと思っていますので、その際にはどうかよろしくお願いをしたいと思っています。

金澤委員： 若い先生は地域にとって大事だと思いますので、是非帰って来るように指導をしていただければと思います。

内藤委員長： これから専門医制度もありますので、大学の方にも（協力を）。

金澤委員： 例えば初期研修プログラムの中で来ていただくこともできるだろうし、専攻医のプログラムの中でもひょっとしたら、内科とか。うまく利用されたら良いかと思っています。

内藤委員長： 専門医資格を取れて地域にも貢献できる仕組みを構築していく必要があるかと思っています。大学の方にもサポートの御協力をお願いしたいと思います。

多田理事長： 若い先生にとってもキャリア形成ができるように、府中市民病院から大きい病院に行って戻ってというように行ったり来たりしながら、専門医なりキャリアを積んでいていただきたいと思っています。その点についてはどこかの教室に入局していただいて、研修の中に組み込んでいただいたら、その方が良いと思っていますが、個人個人と相談しながらそういう方向へというふうには考えております。

内藤委員長： （診療科は）何科を希望されているかというのはまだわからないと思いますが、府中市民病院と府中北市民病院で続けていかなければいけない診療科をできるだけ選択していただければとは思いますが、こればかりは学生さんの希望もありますので。「うちではこういうのをしています。もしよければ。」というようなことができれば。

内藤委員長： よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆様、御協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

進行： 内藤委員長、大変ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても本日は大変熱心に御議論いただき、誠にありがとうございました。

最後に石原副委員長から、閉会にあたってのごあいさつをお願いいたします。

石原副委員長： 本日は府中市病院機構評価委員会にお集まりいただきありがとうございました。多田先生を初めとする病院機構の方々にもいろいろとお話を伺わせていただきありがとうございました。

医療機関は設備にもお金が掛かりますし、特に人件費というものが人を揃えようと思うとそれなりに負担が多くなって、運営が非常に難しい時代になっております。一時、診療報酬の改定が話題になっておりましたけれども、いまはもうとにかく人件費となっております。この辺りは病院を運営なさる方の腕の見せ所となっております。府中市にとりましては、市民病院が無くなりますと入院施設が無くなってしまふということもありますので、地域の方々からするとやはり無いと困ってしまう状況になりますので、是非、非常に御苦勞が多いと思っておりますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

きょうお話を伺って、次の事業年度、体制を前年度から整えていただいているということですので、方向性は大体決めておられるということなので、これから計画の実現に向けて頑張っていたきたいと、よろしくお願ひしたいと思っております。

進行： ありがとうございました。

これを持ちまして、令和2年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を閉会させていただきます。

以上